

「共に生きる会」第2回事業 「映画『ここにおるんじゃけえ』から強制不妊問題を考える」

2021年5月8日 (土)

14時~16時30分(予定)

会場：おもちゃ映画ミュージアム

上映作品

『ここにおるんじゃけえ』

(2010年、映像発信てれれ製作、下之坊修子監督)

講演

下之坊修子監督

『誰もがあたりまえに生きる社会』



下之坊修子監督プロフィール

1991年ウーマンズスクールで映像制作を学ぶ。
2003年カフェ放送でこれ開始。2006年「映像発信てれれ」設立。
『離婚を選んだ女たちPart1.2』全州国際映画祭正式出品。
『忘れてほしくない』ソウル女性映画祭、台湾女性映画祭に正式出品。
『ここにおるんじゃけえ』山形国際ドキュメンタリー映画祭、あいち国際女性映画祭、ソウル・インディペンデント・ビデオ&フィルム映画祭正式出品、東京ドキュメンタリー映画祭上映。

参加費：一般1800円

障害者手帳持参加者と介護者は各1000円

定員：20名。要予約。

(車椅子入場可、手話通訳あり)

この事業は、京都市中京区の共同募金の助成を受けています。

協力団体：一般社団法人京都ボランティア協会/朱一学区民生児童委員協議会/
朱一社会福祉協議会/中京西地区更生保護女性会/
立命館大学生存学研究所/聾宝手話映画

後援団体：京都市身体障害者団体連合会/京都市福祉ボランティアセンター



何で
こんなにも
暖かい人なんやろ
監督 下之坊修子

正式出品
山形国際ドキュメンタリー映画祭
あいち国際女性映画祭
Seoul Independent Documentary Film & Video Festival
東京ドキュメンタリー映画祭

生後すぐに脳性マヒになった
二十歳で強制不妊手術を受けさせられた
100%母を恨んでないと思ったらうそになる
誰にこのやるせない思いをぶつけたらよいのか

要旨：生後すぐに高熱のため脳性まひになった主人公の佐々木千津子さん。いいかげんで、とんでもないところがあるが自由奔放で思慮深い人だ。その彼女が20歳で強制不妊手術を受けさせられた。自分と同じ思いをさせたくないと訴え続けたが2013年に亡くなった。私たちは、障害者やあらゆる人たちに対して差別意識を持って生まれてきたのだろうか。なぜこんな社会になったのか、皆でしっかりと考えたい。



共に生きる会

<http://tomoniikirukai.blog.jp/>

おもちゃ映画ミュージアム内

〒604-8805 京都市中京区壬生馬場町29-1

電話：075-803-0033 FAX：075-803-0034

電子メール：太田文代 fumiyo@toyfilm-museum.jp

